



学校だより (14)

事務所 947-3111 ・ 授業日 291-1591 ◇http://www.hjschl.org ◇e-mail info@hjschl.org

敬 (うやま) うことの大切さ

校長 福原輝幸

鹿児島県が生んだ明治維新の中心人物のひとつである西郷 隆盛 (さいごう たかもり) という人は、青年に対する応対がまことに丁寧 (ていねい) だったと言われています。

来訪した青年が帰る時は、必ず自分で玄関まで見送りをし、そこで居住まいを正して座り、ふかぶかと辞儀 (じぎ) をして「おたのみ申します」と言って見送ったそうです。青年の誰に対してもそうだったと言います。

2400年前のギリシャの哲学者ソクラテスもまた、路上 (ろじょう) で青年に出会うと必ず青年の方を向いて、特徴のある大きなハゲ頭を深く下げお辞儀をしたという言い伝えが残っています。

時の古今、洋の東西を問わず、歴史を自分の足で歩いた人の胸中 (きょうちゅう) には、時代の新しい担い手である青年・若者に対する敬愛の念があふれていたようです。

青年・若者に対する敬愛の気持ちと言動なくして、明日の社会をつくろうとはなんなのでしょうか。

前へ

大木 実

少年の日に読んだ「家なき子」の物語の結 (むす) びはこういう言葉で終わっている。

—— 前へ。

僕はこの言葉が好きだ。

物語は終わっても、僕らの人生は終わらない。僕らの人生の不幸はおわりがない。希望を失わず、つねに前へ進んでいく、物語のなかの少年ルミよ。

僕はあの健気 (けなげ) なルミが好きだ。辛 (つら) いこと、厭 (いや) なこと、哀 (かな) しいことに、出会うたび僕は弱い自分を励 (はげ) ます。

—— 前へ

ぼくにはぼくの道がある

小海 永二

わからんちんなど
かってにせい
ぼくにはぼくの道がある
ぼくは自分を信じてる

わからんちんなど
相手にせん
ぼくはひとりで道を行く
ぼくは自分を大事にしたい

わからんちんなど
ほっておけ
わかってくれる人がいる
ぼくにはそれで十分だ

ぼくにはぼくの道がある

4/11 の学力検査について

標準学力検査<あなたの学習のようす>の結果を、お知らせいたします。この結果は、これからの学習に役立てます。家庭学習にもご活用下さい。